

きれいな海守ろう！

ふるさと うつくし うみ まも にっほんざいだん
 古里の美しい海を守ろうと、日本財団
 ぜんこくかくち てんかい うみ にっほん
 が全国各地で展開している「海と日本プ
 ロジェクト」。県内でも7月22日と8月11
 日に 2日間、高松市の男木島や市中央公
 園などを舞台に「海と島を知って体験！



かがわseaマスター」と銘打ち、児童と
 保護者ら約50人が参加して、開催されま
 した。参加者は海岸で漂着ごみを拾い
 集め、アートに使う「お宝」と本
 当のごみに仕分けました。魚のさばき方

教室では、プロの料理人の手ほどきで、
 安全で無駄のない包丁の技を習得。島
 民との交流会などを通じて、男木島の魅
 力をより深く感じ取りました。漂着ご
 みは、同市内の造形作家の指導でアート

作品に仕上げ、「さぬき高松まつり」が開
 かれた12~14日の3日間、市中央公園を
 彩りました。このページからの4分は、
 参加した児童の25人が記者となり、体験
 したことをまとめたものです。

海岸で漂着ごみを拾い集める参加者



海岸清掃

ごみを捨てないで！

「かがわseaマスター」の参加者約50人は7月22日、高松市の男木島・大井海水浴場で清掃活動を行いました。約20分間の作業でしたが、ごみは意外にたくさんあり、大きなごみ袋にまとめても20袋以上が集まりました。

集まったもので多かったのは、ペットボトルや空き缶、プラスチックごみです。このほか、空き瓶などのガラスの破片が波や砂で削られた「シーグラス」や流木、発泡スチロール、アオリイカの骨、貝殻などがありました。

ガラスの破片は足のけがの原因になり、小さな

プラスチックごみなどは、鳥や魚が誤って食べる恐れがあります。漂着ごみを拾い集めるうちに、海を汚しているものほとんどが、人間



海岸で見つけた貝殻やシーグラス



が捨てたものであることに気がきました。

きれいな貝殻やおもしろい形になった流木などは「アート作品」に使える「お宝」だと感じました。しかし、ペットボトルや空き缶などは、誰にとっても、ありがたいものではありません。アート作品に使えないだけでなく、海の生き物や島の人たちを困らせているのです。

島の人が言っていた「ごみを捨てなかつたら、地球の仲間たちが元気になる」という言葉を、私たちは絶対に忘れません。

海岸の漂着物を「お宝」とごみに仕分け



(城西小6年・今井勇希君、庵治小4年・饗場捺月さん、引田小4年・水口翔太君、桑山小4年・筒井咲稀さん、太田南小1年・大倉彪飛君)